

2019 子どもの未来をひらく 滋賀「教育のつどい」

参加無料
保育あり

事前申込必要
(1週間前)

～ 格差や競争の教育ではなく 子どもたちに豊かな人間性を育む教育を～

いま、「教師に向いていない」「続けていくのがしんどい」「みんなと同じようにできない」と、心を病んでしまう先生や、学校を離れていく先生が増えています。それはいったいなぜなのでしょう？

教師のしごとは、テストの点数をあげたり、できることを増やしたり、問題を起こさせないことではありません。今の教育を見つめなおし、私たちが願う子どもたちの教育について、一緒に考えてみませんか。

1
26
(土)

教科別分科会

10:00 ▶ 16:00 場所 能登川高等学校

2
11
(月)

課題別分科会

9:30 ▶ 14:30 場所 能登川中学校

2
16
(土)

障害児教育分科会

10:00 ▶ 16:30 場所 野洲養護学校

2

11
(月)

全体講演

15:00 ▶ 17:00

場所 能登川コミュニティセンター

先生が先生になれない世の中で - 教師というしごと、教師としての幸せ -

アメリカ公教育の崩壊、学力テストの結果責任による学校と教員の管理、教育の市場化など、昨年わかりやすく話していただいた鈴木先生に今年も来ていただきます。4月からクレスコに連載中の『先生が先生になれない世の中で』の中から、「人が人でなくなっていく教育現場」「私たちはどこを向いて教育しているのか」「生まれた議論の呪縛に自らハマっていく私たち」など、日本の教育の現状を話していただきます。

講師 鈴木 大裕氏
すずき だいゆう



教育研究者

人口3900人の高知県土佐郡土佐町にて、教育を通した町おこしに取り組みつつ、執筆・講演活動を続けている。16歳で米国に留学。大学、大学院と教育学を学び、修士号取得後に帰国。その後、通信教育で教員免許を取得し、千葉の公立中で6年半教える。後にフルブライト奨学生としてコロンビア大教育大学院博士課程へ。著書に『崩壊するアメリカの公教育:日本への警告』(岩波書店)。「クレスコ」と雑誌「教育」で連載をもち、朝日WEBRONZAでもコラムを書いている。

